

令和5年2月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

経済活動が正常化に向かい、コロナ前までには戻らないまでも、多くの業種において売上げが増加しているが、度重なる原材料費や電力料金等の高騰に対し価格転嫁が追いつかず、収益の悪化が続いている。

また、今後、電気料金等のさらなる値上げが見込まれることが、景況感に深刻な影響を与えており、2月期の景況DI値はほぼ横這いとなっている。

さらに、旅館業や製造業等にとっては、回復する需要に対応できる人員の確保が困難との報告があるなど、多くの業種において人手不足が顕在化しており、今後の企業経営への不安感が高まっている。

山口県の主要指標 DI 値（令和5年2月末現在）









※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：7.5% 悪化：35.0% DI 値：▲27.5% ポイント
売上高	(< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、増加：18.8% 減少：37.5% DI 値：▲18.7% ポイント
収益状況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：3.8% 悪化：43.8% DI 値：▲40.0% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和5年2月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	繊維業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲37.5	▲50.0	▲100.0	▲50.0	▲50.0	▲12.5	0.0	▲37.5
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	その他	全非製造業
0.0	▲62.5	▲40.0	0.0	▲27.3	14.3	▲100.0	▲20.9
							

全 体
▲27.5


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	比較的穏やかな天候が続き、売上の大きな減少はなかったが、餅まきを行う行事は縮小傾向にあり、もち米の需要は減少が続いている。バレンタインについても、大手や知名度のある店舗に敵わず売上は伸び悩んでいる。卵の価格が 2 倍近くになり、収益を圧迫している。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	売上は 10%増加しているが、光熱費の高騰で収益が上がらない。	パン・菓子製造業 下関市
	水揚げの減少が続いている。漁業者の減少が続いており、水産漁業者、水産加工業者の後継者不足は深刻である。	水産食料品製造業 長門市
	コロナ禍での業況は落ち着いてきている模様。前年同月頃と比べると動き自体はよくなっている。光熱費の高騰、人件費の上昇と中小企業にとっての厳しい状況は、補助金等で補える範囲ではないため、早く落ち着いてほしい。	水産食料品製造業 下関市
	市場が動いているのを実感できる 1 ヶ月だった。購買欲も高まっているように思う。度重なる値上げラッシュにまたかと思いつつも、弛まない企業努力の甲斐あって、今のところ大きな影響を受けずにいることがありがたい。材料はもちろん売れ残りは廃棄をできるだけ減らすことが、最終的に利益につながる。地味ではあるが毎日コツコツ積み重ねていきたい。	食料品製造業
	コロナ感染症は続いているが、飲食店等もほぼ通常営業となり、売上の減少は軽微なものとなった。米価については低迷しているのに、原油価格の大幅な上昇とロシアのウクライナ侵攻による原料不足等による肥料・燃料など各種コストの大幅な増加により、製造原価が上昇し、事業活動がさらに苦しい状況となっている。各種の値上げが続いているが、取引先によっては、いまだに値下げを要求するところもあり、農業者には原価割れの状況が続いている。ロシアがウクライナに侵攻し、1 年が経過したが、全く終息する気配も無く、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。また、中国からの輸入に頼っているリン酸の価格も上昇し、肥料価格が前年比 150%という驚異的な結果となった。政府の原油価格上昇に伴う損失補填も限界にきているようだが、対策費の継続と食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要となってくる。北朝鮮、中国などの情勢を注視しながら、迅速に対応することが必要となる。	精穀・製粉業
繊維工業	原材料費、電気代、人件費ともアップし納品、販売価格がアップしている。国内の仕事量は全体的に少ないが、ロットが小さく細工・制作が難しい高難度・高品質・高価格な仕事を敢えて受注し、他と差別化を図っている。高品質なものは価格の転嫁がしやすい利点がある。生地屋も少なくなったが、高品質な生地を制作し続けている。日本の生地や制作技術が優れているという評価は、未だヨーロッパで高いが、生地や制作方法等の情報はボーダレス化しており情報の管理は難しくなった。技術者も世代交代の時期であり、高難度な	外衣・シャツ製造業

	仕事が可能人材確保が困難になっている。企業経営をはじめ、「こうやったらこうなる」というかつての公式はなくなっており、あまり時間をかけずに事業を再評価し、これからは生き抜くしかない。	
木材・木製品	組合としての活動は皆無である。山口県産材を使いたいとの話があり、組合から材料納入という話になるかもしれない。 当組合でコロナウイルスの影響が出始めた時期は令和2年4月以降である。組合員の平均売上額は、コロナ前の令和2年2月に比べ15%の減少、コロナ禍の令和4年2月と比べ10%の減少だが、増加傾向の事業所と依然減少が続く事業所とが混在している。需要は減少傾向で、収益についても停滞が続く状況。	製材業・木製品製造業 岩国市
印刷	昨年あった受注も減り、3月の売上も期待できない。	印刷業 山口市
	ゴールデンウィーク明けには2類から5類へ分類変更が決定し、併せてマスク着用も任意とするなど、長期に渡り行動制限がかけられてきたコロナ対策も転換期を迎えているが、国民生活においては、様々な要因による食料品や消費物品の物価上昇に歯止めがかからず、不安要素は尽きない。印刷業界も、原材料の上昇に伴う企業収益の悪化という状況が続いている。	印刷業 下関市
窯業・土石製品	セメント価格が値上げになる。鉄筋、燃料等の資材関係も高止まりの中で賃上げを実行していかないといけない状況に苦慮している。1月発注分の物件より5%~20%の値上げを実行した。	コンクリート製品製造業 防府市
	令和5年4月から約10%値上販売を開始することに決定し、案内文及び販売価格表の配布を行う。引き続いて値上説明を継続するよう組合内で申し合わせをしている。「4月頃セメント値上げの打診が各メーカーからきている。公共工事発注量の大幅ダウンにより、今期業績の回復は、ほぼ不可能だと感じている。	コンクリート製品製造業 柳井市
	出荷量は、前月比73%、前年同月比82%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。	生コンクリート製造業
	電気料金の高騰により、加工を要する仕事については、加工費の増額をしなければならない状況である。	石工品製造業
	売上高は、小売り・卸ともに、前年比でやや増加している。全国旅行支援や萩市の観光クーポンの恩恵もあると思われる。テーブルウェア・フェスティバル(1/27~2/5)、全国くらしの器フェアIN愛媛(2/23~2/27)など、陶器フェアにおける入場者数や売上はコロナ前と比較しやや減少、昨年と比較すると増加している。近年、中国向けのネット販売で萩焼の売上が好調で、フェアでは多くのバイヤーから問い合わせがあった。昨年秋・冬あたりから萩市に於いても、外国市場向け(中国含む)のネット通販事業を目的とした企業が、数名の萩焼の作家や職人を雇い入れ事業を始めている。一部窯元では熟練した職人が引き抜きに遇い、製造に支障をきたしているとのこと。別の小売店では、窯元から商品を供給してもらえなくなったという苦情も出てきている。	陶磁器・同関連 製品製造業

一般機器	2月は例年全体的に仕事量が少ない月で本年も同様であるが、廃業になった企業もある中で人手不足もあり忙しい状況。繁忙期が心配である。	一般機械器具製造業 下松市
	今年度は電気料金の高騰により、共同配管による酸素単価の値上げが3回あり、前年度より合計で23%の値上げとなった。電気料金は、令和5年4月分から従来比約18%の値上げになる。	一般機械器具製造業 周南市
	海外化学プラント向けは、円安傾向の時でも受注が増えなかったもので、秋以降の予想が付かない。機械設備の部品修繕では、半導体不足で部品がなく、数ヶ月か、半年先かわからない状況で、値段も数年前に100万の物が現在170万と驚くような状況。電力会社からは5月から3割程度の値上げとの通知があった。仕入価格の高騰、原油高、物価上昇が消費者マインドに影響を及ぼしている。購入品の入手難で、納期が定まらず工程が組みにくい状況であるが、引き合いは多く、人手不足が解消せず悪影響が出ており、深刻な状況である。元請会社が吸収合併なった会社では、資金繰りに影響が出て、工事量も減少してきている。	一般機械器具製造業 防府市
	円安については若干落ち着きを見せてはいるが、ロシアのウクライナ侵攻に伴う資源高、資源不足もあり企業収益に大きな影響が出ている。貿易収支も大幅な赤字が続いており、これに関連して電気、ガス料金にとどまらず、物価アップへの影響が大きい。さらに生活の安定のために大企業を中心に大幅な賃金アップも予定されており、価格転嫁が難しい下請け中心の中小企業にとっては大きな経営負担となってきた。今後、早急に元受企業の発注単価の改善が必要となる。外国人人材確保の面では、日本の低賃金、円安の影響は大きく、欧米、カナダ、台湾、韓国との人材確保競争は厳しいものがあり日本は脱落気味である。国内での競合も激しく都会の高賃金に対抗できず、地方においては募集しても人が集まりにくいだけでなく転出も多い状況が継続している。 依然として収益の減少は続いており、厳しい状況に変わりはない。	一般機械器具製造業 宇部市
輸送機器	鉄道車両関係は順調に推移しており、今後2年間は同程度での推移と思われる。原材料費や電気料等の高騰により収益は悪化。半導体製造装置の部品製造業において、やや陰りが見え始め受注量が減少しているものもあるので、引き続き今後の受注動向を注視したい。従業員確保及び技能継承には苦労している。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	倉庫売上は昨年と同等であった。海苔の値段の高騰により入庫が激減したが、電気代高騰による保管料金の値上げで増収となり補填できた状況である。	乾物卸売業
小売業	山口県でも徐々に外国人を見かけるようになったが、インバウンドのような売上アップの傾向はないようである。2/14～17に資生堂のコンベンションが4年ぶりに開催され、2022年度の資生堂ビューティパートナー施策は前年比104%となり、首都圏や大都市で売上げがアップしている模様だが、山口県の店舗では良くなったという実感は無い。今後の販売状況はネットで情報を得て、リアル店舗で化粧品価値や機能を体感し購入する流れになるのではないかとのことである。	化粧品小売業

	例年 2 月は全体的に売上が良くないが、本年は特に大型の家電が良くない状況。顧客回りを重点的に行っており、3 月以降の売上に期待している。一部の店舗で個展を計画している。	機械器具小売業
	売上は駐車サービス券のみで、前月の 80%位となっている。	各種商品小売業 周南市
	売上は、コロナ禍の前年同月比で約 55%の増加。来館者数は約 40%増加。コロナの影響が和らぎ、団体バスが立ち寄るなど観光需要が回復した。一方で、原材料・資材の高騰、電気料金の上昇が続き、収益が圧迫され厳しい経営状況が続いている。	各種商品小売業 萩市
	2 月から日曜日を休業にしたので月 3 日ほど営業日が減少し、結果、2 月の供給高は前年比で 97.0%、来店者数 92.2%となり、来店者数も減少している。店舗スタッフのシフトを組むのに苦労している。人員の募集はかけているが応募がない。	各種商品小売業 下関市
商店街	物価高騰のあおりが顕著。加えて水道光熱費も上がり資金繰りが逼迫している。事業者だけでなく、一般消費者のエンゲル係数も高くなって消費が鈍っている。3 月のマスク自由化、5 月の 5 類引き下げなどで期待感が高まるが、市況の冷え込みが戻る気配は見られない。	岩国市
	物価高騰は続いているが、若干、人通りが増えたように思う。消費アップに繋がっているかは不明であるが、春に向けて期待したい。	宇部市
	学生服の売上が少し伸びているようである。商店街の人出はあまり良い状況ではなく、駐車場経営においては人件費が確保できない状況。飲食街での人出も少なく、「このような状況がいつまで続くのか頭を抱えており、商店街を潤す状態に早く戻って欲しい。」と商店街の理事長は話す。	萩市
	寒波の影響が少なかったとはいえ、商店街来街者数の減少が解消されない。下関市の「ひなまつりイベント」が商店街でも始まっているが、消費者の買い控えか、買い物客がまばらである。若い世代にも商店街に来てほしいとの思いから、商店街 Instagram を始めたので、来街者数に繋がることを期待している。	下関市
サービス業	2 月は例年一番ゆっくりした月である。昨年よりは多少寒いように思うが例年と状況は変わらない。	美容業
	経営回復の兆しが見られる中、原材料等の価格上昇が続いており、厳しい状況にある。	理容業
	自動車検査証が電子化されて 2 ヶ月が過ぎようとしているが、スタートから 2、3 日は国側も慣れないこともあって検査証の交付までかなり時間を要していたが、現在は旧車検査の時と変わらずスムーズな交付がされている。登録車の全てが電子検査証に代わるまでには 3 年が必要となるが、これから整備事業者にとって利便性が向上することは間違いない。	自動車整備業
	値上げで売上は少し上がったが、電力の値上がり率が異常で、会費の値上げをしても追いつかない。電力価格の上昇等で家計が圧迫されているのか入会の動向が鈍い。	スポーツ・健康教授業

	<p>コロナもいよいよ終息と感じている。これからは、お客様にまた飲みに出てもらえるようにしっかりと営業努力をしていく。</p>	飲食業
	<p>売上、宿泊人員とも県民割等の施策により対前年同月比は大幅増となったが、コロナ前 2019 年の売上同月比で 93.9%、宿泊人員は 109.6%と宿泊者数は 2 桁の伸びとなった。全国割の継続、サイコロきっぷ等の施策が一因と思われる。売上については、飲食を伴わない会議開催などの影響を受けたためと考えられる。恒常的な人員不足でもあり、一部サービスの提供が出来ていない状況。</p>	旅館業 山口市
	<p>入浴の一部料金を 2 月から 10%値上げしたが、売上高の増額には至らなかった。利用客数は前年比 10%増となった。コロナ感染症の影響は少なからずあると思われる。</p>	旅館業 長門市
	<p>2 月はもともと売上が上がりにくいのが、今年は燃料費などのコストの高騰で、さらに利益が圧迫されている状態である。売上に関しては、新たな取り組みに挑戦し続ける事業所とそうでない事業所で格差が広がっているように感じる。</p>	普通洗濯業
建設業	<p>中電への工事申請 132 件(当支部 113 件)、前年同月 149 件(同 132 件)。太陽光発電への申請 24 件(前年 29 件)、オール電化申請 79 件 (前年 64 件)。LED 街路灯への切り替え・新設申請 10 件(前年 27 件)であった。</p>	電気工事業
	<p>原材料の値上げや土曜日の工事現場に対処する為、見積単価のアップと契約金額の上昇の交渉を行っている。休業日の増加で給与の負担が重くなっている。</p>	左官工事業
	<p>令和 4 年度官公需の入札は終了しており 2 月の入札は無かった。年度初めに受注した官公需の工事は終了し、現在は民間の小規模工事を実施している。令和 4 年度は民間工事を含めても全般的に仕事量が少なかった。</p>	管工事業
	<p>物価上昇を上回る賃上げの春闘が始まり、幾つかの大企業はそれに応えるが、中小企業においては、数パーセントの賃上げなど叶うべくもない。新型コロナウイルス感染症を 5 類へと変更する方針が示されているが、5 月以降の混乱が懸念される。土木建設関連では、資材の高騰が利益率を引き下げており、加えて、慢性的な人手不足が今後の企業経営において大きな不安となっている。今年度は、県発注の受注額が減少している。</p>	一般土木工事業 柳井市
	<p>2 月の受注高は、対前年同月比 132.7%。今年度の累計では、対前年比 84.7%。</p>	一般土木工事業 萩市
	<p>燃料費、生コンクリート、アスファルト、鋼材、木材等の建設資材単価が高騰しており、収益への影響が心配される。長門地区の公共工事発注高が例年に比べ減少しており、その中でも舗装工事が著しく減少している。第 4 四半期の補正予算に期待している。</p>	一般土木工事業 長門市
	<p>各社忙しくしている様子。図面決定の遅れで業務に支障をきたしており、予定がずれた分を他社の手伝いで埋めたりや、物件が重なって残業が増えたり等苦慮している。材料価格高騰に加えてガス・電気・現場鉄工費も値上げ傾向のためコスト面であまり良い状況ではない。</p>	鉄骨・鉄筋工事業

運輸業	輸送関係の国内向けはやや上向き、輸出は天候と世界情勢に左右され下向きであったが、約0.2%の増加。燃料関係は前月と同額。燃料価格の上昇を懸念しており、軽油引取税の引下げはできないのかとの声がある。	一般貨物自動車運送業 下松市
	自動車関連の組合輸送取扱高は前年同月比で37%のプラスとなったが、前年度はコロナ禍で特に落ち込みが激しかった。コロナ前の水準には遠く及ばない状況である。	一般貨物自動車運送業 防府市
	倉庫保管案件が好調であり、場合によっては外部倉庫を賃貸して対応している。輸送の動きは若干鈍くなってきている模様。また、軽油をはじめとする価格高騰が収益に影響を及ぼしている。運輸業では、2024年問題に備える運行時間の対応が今後の課題。	一般貨物自動車運送業 宇部市
	タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+57.2%（令和5年1月1日～令和5年2月20日分）だった。1月1日～31日分は+39.9%、2月1日～20日分は+94.4%。前々年度比では、それぞれ+47.8%、+52.0%、+41.8%になった。大幅に回復したように見えるが、前年、前々年が大幅に減少したためであり、令和元年度比（コロナ前）では▲38.6%。まだまだ回復しているとは言えない。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。1月分については、周南+39.4%、下松+78.0%、光+78.9%、防府市地区が+30.8%で、組合員の全域では+44.1%、地区外（員外）+15.9%、合計+39.9%（+3,393千円）だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動する。CPが上がり（前月627.5\$/トンが今月697.5\$/トン）、フレート（輸送）コストは下がった（前月12,100円/トンが今月9,400円/トン）。為替は円高（前月136.22円/\$が今月131.23円/\$）となり、燃料単価は前月より+2.2%上がった。前年2月比は+3.4%。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足している。高齢乗務員が退職し、その補充ができない状況。ウイズコロナで行動制限が緩くなり、需要が回復傾向にあるが、まだコロナ前（令和元年度以前）の需要の▲39%付近であり、諸物価、経費が増加する中、たいへん厳しい経営状況の模様。運賃改定の動きがあるが、山口県内の認可はもう少し遅れそうである。	一般乗用旅客 自動車運送業
	今月も対前年比、取扱高若干の減少。	港湾運送業
その他	外国人技能実習生受入の予定であった組合員や加入予定の事業所においても、人員を増やすことが難しくなっている。背景には光熱水費の値上がり、社会保険料や税金等で企業負担の増加と企業単体での収益の悪化も要因としてある。	介護事業